

【十二月の言葉（令和六年）】

相手を疑わず、素直な心で聞く

〈きくといふは、本願をききて疑ふところなきを「聞」といふなり

いちねんたねんもんい
（一念多念文意）〈

「阿弥陀さまの声（教え）を疑う心を持たずに聞くところぞ、」聞」というのである」と親鸞はいいいます。疑いのない素直な心で教えをいただくことができたとき、初めて真理にたどりつけるのです。

私たちは相手の言葉を聞いているつもりでも、いつの間にか自分の思いや感情がそれを上回ってしまうことがあります。相手に対して疑いの心を持っていると、自分のためにかけてくれた言葉にさえ、「私を陥（おとし）れようとしているのかもしれない」など、曲がった解釈をしてしまいかねません。

他人の話を聞くとき、まずは、自分の考えを挟まずに素直な心で受け取ってみましょう。きつと、言葉だけでなく、相手の思いまで理解できるはずで